

《今回は、22期生による初年度の案内です。》

22期生全員での案内となりました。

案内コースは、豊浦宮跡～甘檜丘～石神遺跡～水落遺跡～飛鳥寺～酒船石遺跡～飛鳥京跡でした。皆さんそれぞれ資料もたくさん準備されて勉強の成果がひしひしと感じられる発表ぶりでした。22期生の皆さんお疲れ様でした。



【豊浦宮跡にて】

推古天皇が592年に最初の飛鳥で開かれた 宮殿です。

そして603年に小墾田に遷るまで営んだ場所でした。

豊浦寺に参拝し説明を受けた後、難波の池跡やすすぎの瀧等の説明がなされました。



【甘檜丘にて】

大展望台から大和平野南部が一望できます。西に見える金剛山系・北に見える大和三山・そこから見える飛鳥の宮・藤原京・平城京へと続く風景と史跡等を説明されました。



【石神遺跡にて】

宮廷の饗宴儀礼施設と考えられています。明治 35 年に、須弥山石・石人像が小字石神水田から偶然発見されました。説明に色々な工夫が感じられた説明でした。



【水落遺跡にて】

「日本書紀」によれば、660 年(斉明 6 年) 皇太子中大兄皇子は、 はじめて漏刻（水時計）を造り、人民に「時」を知らせ「時」をもって社会秩序を整えていきました。
また発表者の資料も工夫されていました。



【飛鳥寺にて】

日本で最初の本格的寺院で、法興寺・元興寺とも号し、平城京の元興寺に対して、本元興寺とも呼ぶ。創建当時は、南北：300m 東西：200mの大きな敷地でした。



【酒船石遺跡】

齊明天皇が東の山に石を累ねて垣とす。と日本書紀にあります。
道教に伴う施設ではないかと言われています。



【飛鳥宮跡にて】

昭和 39 年 1 月 9 日、飛鳥浄御原宮の大井戸が発見されました。
この発見を契機として、飛鳥保存の機運が徐々に高まって行きます。
宮殿は、下層・中層・上層 飛鳥岡本宮・飛鳥板蓋宮・(後飛鳥岡本宮・飛鳥浄御原宮)
になっているとの説明を丁寧になされていました。